

③緊急時の対応 ①各機関と連携した災害等非常時の適切な対応 災害等による緊急時及び避難時には国営公園管理業務受託者や県との円滑な連絡体制の下、各自治体や警察、消防等と連携し対応を行う。	○	○	・災害等による緊急時及び避難時は無かった。 ・危機管理マニュアルを活用し、災害等による緊急時及び避難時に備えた。	・月報により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
②事故発生時における二次災害防止 駐車場内での事故発生時には、職員が現場で指揮を執り、多重衝突事故や火災等二次的な事故発生の防止、救護や誘導等人命を最優先とした適切な対応を行う。	○	○	・駐車場内での事故発生時には、職員が現場で指揮を執り、多重衝突事故や火災等二次的な事故発生の防止、救護や誘導等人命を最優先とした適切な対応を行った。 事故処理件数:70件			
③荒天時における駐車場への送迎等の対応 急な天候の変化による荒天時には、利用者が水族館等から駐車場への移動が困難な場合は、マイクロバス等で送迎を行い、利用者へ安全と安心を提供する。	○	○	・3/31に急な天候の変化による荒天のため、マイクロバスでの送迎を行った。			

※必要に応じて項目を追加・削除して記入すること。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

1. 維持管理業務 取組改善案	・オキちゃん劇場などの施設営業やお客様サービスへの影響が大きい修繕が生じており、点検による早期把握及び計画的な修繕対策等が重要になっていることから、引き続き県・指定管理者・国とで連携の取れた大規模修繕の実施が必要である。 ・コロナ禍での落ち込みを経て、利用者数の増加傾向が顕著となっていることから、引き続き利用者の安全・安心を確保するための混雑緩和等に取り組む。
--------------------	--

※「1. 維持管理業務」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R6年度)の主な取組改善案を記入すること。

2. 運営業務

(1) 利用実績

1) 利用者数等

		令和4年度実績	事業計画 (目標値)	令和5年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
利用者数	個人利用者数	1,852,965	-	2,425,162	130.9%	-	・新型コロナウイルスが5類へ移行したことにより、国内の個人旅行の増加、修学旅行が回復した。また、水際対策の緩和により外国人客も増加しており、入館者数は計画に比べて増加した。
	団体利用者数	311,549	-	530,930	170.4%	-	
	合計	2,164,514	2,810,000	2,956,092	136.6%	105.2%	
	教室・イベント参加者数(内数)	231,328		10,730	4.6%	-	

評価(①利用状況)

A

【評価基準 (①利用状況)】

目標値に対する達成率

S : 110%以上

A : 100%以上、110%未満

B : 80%以上、100%未満

2) 施設稼働率

		令和4年度実績	事業計画 (目標値)	令和5年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
平均稼働率		365 日	366 日	362 日	99.2%	98.9%	・12月の2日間を定期施設点検の休場日と計画していたが、多客日対応のため開場した。 ・8月に4日間(1日、2日、5日、6日)、台風のため臨時休場とした。
平日稼働率		246 日	244 日	244 日	99.2%	100.0%	
土日祝日稼働率		119 日	120 日	118 日	99.2%	98.3%	

施設稼働率を①利用状況の評価項目とする場合に本欄を使用する。

評価(①利用状況)

【評価基準 (①利用状況)】

目標値に対する達成率

S : 110%以上

A : 100%以上、110%未満

B : 80%以上、100%未満

C : 80%未満

(2) 運営企画

事業計画	実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	(事業報告書)	(現地確認)		
入場者数目標値				
令和5年度における入場者目標値を2,810,000人に設定する。	- 令和5年度の入場者数は2,956,092人で、目標値比(105.2%、+146,092人)、前年度実績比(136.6%、+791,578人)ともに増となった。 - 国内では、3/13からのマスク着用のルールの緩和、5/8から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことや全国旅行支援等による需要喚起により、一般客や修学旅行を含む団体客が回復傾向にあり増となった。 - 国外では、令和4年10月に水際対策が大幅に緩和され、航空路線の再開が続いたことや円安の影響により、台湾・香港・韓国等からの外国人観光客も増加傾向であった。 4/29～5/7のGW期間、8/1～8/31の夏休み期間、12/23～1/8の冬休み期間、3/23～3/31の春休み期間においてイベントを実施し誘客を図った。 - イルカショーにおいては季節ごとに合わせたショーを、水槽展示では企画展示を実施し誘客を図った。	売上報告書、ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	- 良好に実施できている。 - 新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、国内の個人旅行の増加、修学旅行が回復した。また、水際対策の緩和により外国人客も増加した。 - 館内の混雑状況に応じて、国営の駐車場への誘導や蛇行入場させるなどの対応を行っている。また、館内では多言語で「混み合っている」とのアナウンスを実施している。 - 引き続き入場者数を確保しつつ、混雑による満足度低下等が生じないように対策を実施する。

営業日時・休場日				
【当初計画】 1)水族館等の営業日・営業時間 ・水族館及び総合休憩所 通常期:8時30分～18時30分 繁忙期:8時30分～20時00分 ・海獣施設及びウミガメ施設 通常期:8時30分～17時30分 繁忙期:8時30分～19時00分 ・駐車場 通常期:8時00分～19時00分 繁忙期:8時00分～20時30分 ・上記以外の施設 通常期:8時00分～18時00分 繁忙期:8時00分～19時30分 【変更計画】 水族館及び総合休憩所 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31) 8 時30 分～18 時30 分 繁忙期(4/27～5/2、5/6、7/20～7/31) 8 時30 分～20 時00 分 GW 期間(5/3～5/5) 8 時10 分～20 時00 分 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31) 8 時30 分～21 時00 分 海獣施設及びウミガメ施設 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31) 8 時30 分～17 時30 分 繁忙期(4/27～5/2、5/6、7/20～7/31) 8 時30 分～19 時00 分 GW 期間(5/3～5/5) 8 時30 分～19 時00 分 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31) 8 時30 分～19 時00 分 駐車場 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31) 8 時00 分～19 時00 分 ※4/1～9/30、3/1～3/31 は8 時00 分～19 時30 分 繁忙期(4/27～5/2、5/6、7/20～7/31) 8 時00 分～20 時30 分 GW 期間(5/3～5/5) 8 時00 分～20 時30 分 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31) 8 時00 分～21 時30 分 上記以外の施設 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31) 8 時30 分～17 時30 分 ※4/1～9/30、3/1～3/31 は8 時30 分～19 時00 分 繁忙期(4/27～5/2、5/6、7/20～7/31) 8 時30 分～19 時00 分 GW 期間(5/3～5/5) 8 時30 分～19 時00 分 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31) 8 時30 分～19 時00 分	・令和5年度の営業日は、4/1～3/31とした。 営業日数:362日(平日244日、土日祝日118日) 休場日数:4日(平日2日、土日祝日2日) ・開場は8時30分とし、閉場は閉園時間の30分前で実施した。 ・入場券発売は、閉場時間の1時間前に終了した。 ・MICE及びウェディングプランの実施期間は、繁忙期・ナイトアクアリウム期間を除き通年とした。令和5年度の受入れは、MICE14件、ウェディング16件であった。 ・県へ営業時間の変更申請を行い、繁忙期(4～9月、3月)を、通常期(4/1～4/28、5/8～7/14、9/1～3/31)、繁忙期営業(4/29～5/7、7/15～7/31)、ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31)の営業とした。	・売上報告書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・施設の効率的な運営と収益確保のため、通常期・繁忙期の時期見直しが行われており、今後の随時見直しを行っていく必要がある。

・開場は8時30分とし、閉場は閉園時間の30分前とする。 ・入場券発売は、原則として閉場時間の1時間前に終了する。 ・MICE及びウェディングプランの実施期間は通年とする。ただし、休場日及び水族館が特に定める日を除く。実施時間等は各実施要領に基づくものとする。 ・原則、通常期は10月～2月、繁忙期は3月～9月とし、各年度において変更する場合は、沖縄県土木建築部都市公園課(以下「県」という。)へ年度業務計画書の変更協議と併せて開場時間の変更申請を行う。 ・台風や催事企画による繁忙日等特別な場合の開場及び閉場時間の変更については、県と調整し、必要な手続を行う。	・GWの繁忙期のうち、5/3～5/5は水族館滞留者の分散化及び安全確保を図るため、開場時間を8時10分とした。 ・7/15は「海洋博公園サマーフェスティバル2023」開催に伴い営業時間の変更申請を行い、23時まで営業時間を延長した。 ・台風2号及び6号の接近により、国・県・国営公園管理業務受託者と調整し、臨時休場・途中閉場とした。台風2号:6/1は12時30分に途中閉場とした。 - 台風6号:8/1、8/2、8/5、8/6は臨時休場とした。8/4は17時00分に途中閉場とした。			
2)休場日 休場日は12月の第1水曜日とその翌日とする。なお、台風等により休場する必要がある場合や休場日を変更する場合は、県と調整し必要な手続を行う。	・台風2号及び6号の接近により、国・県・国営公園管理業務受託者と調整し、臨時休場・途中閉場とした。台風2号:6/1は12時30分に途中閉場とした。 - 台風6号:8/1、8/2、8/5、8/6は臨時休場とした。8/4は17時00分に途中閉場とした。 ・県と協議し、12月の第1水曜日とその翌日に設定されている休場日については、10～12月は修学旅行のピークとなっており一般利用者や旅行社より開場して欲しいとの要望があること、また、休場した場合は前日・後日が混雑することから、利用者の分散による満足度向上を目的に県と協議し、休場日とせず開場日に変更した。 ※休場日に予定していた設備点検等は、安全を最優先したうえで夜間実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(3)料金収受

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
・一般 大人:2,180円、中人(高校生):1,440円、小人(小・中学生):710円 ・団体(20人以上) 大人:1,730円、中人(高校生):1,140円、小人(小・中学生):560円 ・年間パスポート 大人:4,360円、中人(高校生):2,880円、小人(小・中学生):1,420円 ・小学生未満については入場料を無料とする。 ・身体障害者手帳・療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者で、手帳の提示のあった本人及びその介護者1名についてはそれぞれ無料とする。 ・その他、入場料金の減額及び免除については、減免規程に定める。 ・業務入場については、別途、業務入場要領に基づき実施する。	○	○	・入場料等については沖縄県からの承認に基づき実施した。 ・小学生未満については入場料を無料とした。 ・身体障害者手帳・療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳交付を受けている者で、手帳の提示のあった本人及びその介護者1名についてはそれぞれ無料とした。 ・入場料金の減額及び免除については、減免規程に基づき実施した。 ・業務入場については、業務入場要領に基づき実施した。 ・県内学生(小・中・高校)の入館料免除について、沖縄県と協議し、10/1より実施した。(400件14,418名)	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(4)飼育展示

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1)水族館内						
イノーの生き物たち ・オカヤドカリやヤシガニ等の海岸近くに生息する陸棲生物を展示し、海岸域の多様性について展示解説する。 ・カレイ等の魚類が砂中に隠れる行動や、ヒトデ類のエサを食べる様子等、特徴的なイノーの生き物たちの生態について展示し、水面直上から観察できる等、距離感のない展示空間を創出する。 ※動物福祉上、触察は行わない生態展示とする。	○		・オカヤドカリやヤシガニの展示を通して、沖縄の海岸域の多様性を解説した。 ・ヒトデやナマコなど、イノーにすむ生き物や、砂地に生活する魚類や水草などを水面と水中の両方から観覧できるよう生体展示を行った。また、世界で初めて繁殖に成功したハタゴイソギンチャクや、それに共生する水族館生まれのクマノミ類など、話題性のある生き物の展示を行った。 ・展示生物の観察を促すため、「飼育員の推し生物」と題し、11月より月1回ペースで展示交換を試行実施。 ・動物福祉を鑑み、触察は実施しなかった。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
サンゴの海 ・沖縄周辺に生息する有藻性イシサンゴ類約80種を展示し、多様なサンゴが群生する礁池を再現する。また、県内および近隣県の漁協と連携し、ヤギ類等の無藻性サンゴ類の新規展示や世界初繁殖に取り組む。 ・サンゴの産卵シーズン(6月頃)には、有性生殖によるサンゴの産卵や幼生の観察ができる展示をするとともに、サンゴの生態や保全の重要性について紹介する。	○		・約80種の有藻性イシサンゴ類や、これまで展示できていなかったヤギ目5種を展示した。 ・5/29に22年連続となるサンゴの放卵放精(産卵)を確認した。 ・GW～6月末にかけて企画展「サンゴ繁殖展」(4/29～6/15)を実施し、当館独自のイシサンゴ類繁殖技術(産卵時間調整)を活用した産卵行動の水槽展示や解説を行った。 ・水族館が取り組む生息域外保全の一環として、水槽生まれのサンゴ幼生放流(6月中旬)および稚サンゴの展示を実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
熱帯魚の海 ・サンゴ礁の礁縁部に生息する多様な熱帯性魚類を展示し、それらの生態等について分かりやすく解説する。 ・飼育困難種であるブダイ類(イラブチャー)等、沖縄を代表する魚類の展示を行い、それらの生態や特徴を解説する。 ・シマハギ等の群れを形成する魚類の展示を強化し、サンゴ礁域の環境を再現する。 ・サンゴ礁域に形成される海中洞窟に生息する魚類や無藻性サンゴ類の展示を強化し、洞窟内の特徴的な生態系を再現する。	○		・ブダイ類(イラブチャー)やスジアラ(アカジン)等の沖縄を代表する魚類を含め、約160種の熱帯性魚類を展示し、それらの生態等についてパネルやモニターを用いて分かりやすく解説した。 ・解説員による摂餌行動の解説を行った。 ・水流発生ポンプによりクマササハナムロやヒメジなどの魚類の群れを制御し、視認性の高い魚群展示を実施した。 ・アクリル研磨を実施し、透明度の改善を行った。 ・洞窟部の水流を確保し、魚類本来の生態と行動を再現した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

サンゴ礁への旅個水槽 ・岩礁やマングローブ林、海草藻場等、様々な沿岸域の環境を再現し、そこに生息する多様な生物の生態展示を行う。 ・サンゴ礁を代表するクマノミ類やタツノオトシゴ類等の繁殖を推進し、繁殖個体の展示を行う。 ・特定動物(危険な動物)に指定されるウミヘビ類等、沖縄を代表する海洋危険生物を中心に展示するとともに、これら生物による被害の防止方法や、応急処置について紹介する。 ・リュウキュウスガモやウミヒルモ等の海草藻場や、そこに生息する生物を展示する。特に沖縄のイカ類(コブシメ等)の槽内繁殖や繁殖個体の育成を通して、周年展示を実現させる。	○	・マングローブやサンゴ礁に生息する、イセエビ類などの無脊椎動物や、チンアナゴ等の魚類を展示し、沖縄の沿岸域における生物多様性を再現した。 ・ハタゴイソギンチャクやクマノミ類等、繁殖個体の展示を実施した。 ・企画展示「美ら海によるフェスティバル」(7/1～8/31)を実施し、ウミヘビ類やアナゴ類等、沖縄の沿岸海域に生息する細長い形態を持つ生物に焦点を当てた展示を行った。 ・リュウキュウスガモやウミヒルモ等の海草藻場や、そこに生息する生物を展示した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
美ら海シアター ・MICE やウェディング等の利用が可能な多目的ホールとして、様々な利用者へのニーズに対応する。	○	・MICE やウェディングの待機場所として利用する等、様々な利用者へのニーズに対応した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・施設の特性を活かした事業ができるよう改修を検討する必要がある。

黒潮の海、黒潮探検、ジンベエ・マンタコーナー ・黒潮海域に生息する大型海洋生物の特徴やその生態を解説する。ジンベエザメの性成熟や体温調節機構の解明、ナンヨウマンタの世界唯一の飼育下繁殖等、財団が独自に実施した最新の研究成果を紹介するとともに、給餌時にはジンベエザメの垂直摂餌やマンタの回転摂餌を再現し、希少な大型板鰐類の生態について解説する。また、沖縄の県魚であるタカサゴ、本部町の重要な水産資源であるカツオ等も展示し、地域の漁業の普及啓発にも繋げる。 また、黒潮探検では水槽を上から見下ろすように生物を観察できる機会を提供し、繁殖に成功した魚類の育成の様子も公開する。 ・水族館の裏側をガイドする「裏側まるごとウォッチング」を行い、さらなる水族館の魅力を紹介する。また、黒潮探検では水槽を上から見下ろすように生物を観察できる機会を提供し、繁殖に成功した魚類の育成の様子も公開する。 ・独自の飼育実績に基づき、世界最大エイのオニイトマキエイを含むイトマキエイ属の展示を実施する。また、ナンヨウマンタの累代繁殖を促進し、希少種の保全と持続的展示の実現を図る。 ・水族館の裏側をガイドする「裏側まるごとウォッチング」を行い、さらなる水族館の魅力を紹介する。	○		・大型板鰐類であるジンベエザメや、ナンヨウマンタ、オニイトマキエイ、ヒメイトマキエイおよびイトマキエイの4種からなるイトマキエイ類の世界唯一同時展示、飼育困難種であるホウライザメ等を含む、約60種の展示を行った。 ・解説員による給餌解説や動画配信による生態解説を実施した。 ・県魚であるタカサゴ(グルクン)や、本部町の水産資源を代表するカツオ類の展示を実施した。 ・9種の世界唯一展示と11種の日本唯一展示を実施した。 ・バックヤードツアー「沖縄美ら海水族館・裏側まるごとウォッチング」を実施し、水族館で飼育している沖縄の外洋域に生息(回遊)する魚類の生態や多様性や、設備について解説を実施した(実施回数:1,344回 参加者:4,275名)。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・バックヤードツアーは日本語のみ対応しているため、同時通訳機を活用するなど海外の利用者にも対応できる体制を検討する必要がある。
サメ博士の部屋 ・飼育困難種であるツマジロヤカマストガリザメ等の大型サメ類複数種を同時展示する。 ・財団独自に開発した人工子宮装置(特許出願中)と、装置内で育成中のフジクジラ等の胎仔の展示を行うとともに、サメの繁殖方法について専門的に解説する。また、本装置を活用し、飼育困難種の展示を行う。更に、ガラパゴスでのジンベエザメ調査や繁殖生態研究等、独自で行った研究成果について、大型モニターやパネル、標本等を用いて多言語で解説する。	○		・飼育困難種であるツマジロヤクロガリザメ等、計5種のサメ類の展示を行った。 ・独自開発された人工子宮装置の展示を通し、サメ類の多様な繁殖様式について解説を行った。 ・水族館で明らかとなった最新の研究成果(科学論文に投稿された学術研究)について、動画や標本、パネル等で解説を行った。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

深海への旅個水槽、海のプラネタリウム、深海探検の部屋 ・沖縄本島周辺の深海(水深約200m以深)に生息する生物を展示、解説する。特に、魚類の減圧症(潜水病)を治療する独自開発した加圧水槽やROV(遠隔操作無人潜水艇)を利用し、深海性魚類等の飼育困難種の展示を実現する。更に、映像等を利用し、深海生物の特徴的な行動や生態を科学的に分かりやすく紹介する。 ・深海性甲殻類や魚類等の繁殖を推進し、その繁殖個体の展示を行う。また、人工子宮装置を活用したフジクジラ等の板鰐類の育成に取り組む。 ・ROV等で得られた採集データや、飼育展示を通して得られた知見に基づき、国内外の研究者と協力して生物多様性研究に貢献するとともに、その結果を展示に反映させる。	○		・採集の機会を増やし、オキアガツツやナノハナスズメダイ、ホウボウ類2種の計4種の当館初展示を行った。 ・各展示槽ではモニターを使用し展示生物の生態等を分かりやすく解説した。また、毎月、最新の展示情報を深海コーナーの入口に掲示した。発光や蛍光する生物の展示解説を行った。 ・新種リュウグウノボテンや新属新種のチュラムミゴカクヒトデ等の学術記載にあわせ、生体展示を行った。 ・人工子宮装置を活用したフジクジラの繁殖について映像により解説した。 ・ROVや釣り等で採取された、世界唯一となる6種および日本唯一となる20種の深海生物を新たに展示した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
わくわくアクアラボ ・水族館の飼育や調査・研究活動を通して明らかとなった知見を中心に、モニターやパネルを活用した解説コーナーとして利用する。	○		・昨年度から継続している特別展示「海のビックリすご技展」のパネルや標本を更新し、水族館で確認された生物の特殊な生態や姿についての解説展示を実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
琉球弧の水辺 ・沖縄の陸水域に生息する魚類や両生・爬虫類等の希少生物を中心とした生体展示により、琉球列島の生態系を再現する。 ・外来種による環境問題等、標本やモニター等を活用し分かりやすく解説する。 ・クロイトカゲモドキ等の国内希少野生動植物種については、野生復帰を目的に生体の飼育展示を行う。 ・世界自然遺産推進共同企業体として、世界自然遺産登録が決定した沖縄島北部及び西表島の生態系や環境に関する展示を、環境省や沖縄県等と連携し取り組み、希少種に関する正しい知識の普及啓発を行う。	○		・夏休み特別企画「～やんばるの自然展～」(8/1～8/31)を開催し、イボイモリ、リュウキュウヤマガメ、キバラヨシノボリ等の琉球列島固有種を含む希少両生および爬虫類の展示を行い、沖縄の陸水域の多様性を解説した。 ・標本やパネルにより、外来種や環境問題に関する普及啓発を行った。 ・昨年度繁殖したクロイトカゲモドキ、イボイモリ、リュウキュウヤマガメを常設展示した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

美ら海プラザ ・メガマウスザメ、ウバザメ、マッコウクジラ等の大型生物の標本を中心に、視覚障害者の触察に対応したブラスティネーションを展示し、様々な利用者に対応する展示を行う。 ・沖縄で捕獲されたホホジロザメ標本(液浸)を展示し、本物の迫力を体感できる展示を行う。	○	・メガマウスザメの液浸表本やマッコウクジラの骨格標本を展示するとともに、魚類や無脊椎動物のブラスティネーション標本を展示した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していたハンズオン展示の利用を再開した(5/8～)。 ・利用者の理解度向上を図るため、解説の追加・更新を行った。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
イベントホール ・沖縄の海洋生物や環境保全に関連した講演会等、多様な主体に対応した多目的ホールとして利用する。	○	・沖縄県の事業である「国立自然史博物館誘致推進事業」に関連し、「国立自然史博物館を沖縄に！国立沖縄自然史博物館構想企画展」を開催した。併せて、年パス会員向け教室「美ら海オトナ塾」を全5回実施したほか、教育普及プログラムの「インタビュー学習」「講師派遣」、地域中学校を対象とした通年学習「サンゴから学ぶ環境学習」等で利用した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
陸上蓄養施設 ・予備水槽としてサンゴ等の海洋生物の繁殖を推進するとともに、繁殖個体の野生復帰調査を目指し、生物の保全や持続的な利用に寄与する。	○	・水族館内で繁殖個体や新たに入手した若魚等の育成用水槽として活用した。 ・屋上水槽でサンゴの繁殖や育成を実施した。 ・経年劣化した水槽設備等を整理し、今後の利便性の高い飼育施設や保全施設としての活用に備えた。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)展示解説方針 ①最新情報・科学的根拠に基づく解説 展示生物では、科学論文やそれに準ずる報告等に基づき最新の情報を提供し、沖縄の多様な生物の分類・生態を正しく伝える。		・科学的根拠に基づいた展示や正しい知識の解説を実施した(例:水族館入口の初記録種揭示、サメ博士の部屋の研究成果紹介等)。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・「熱帯魚の海」水槽の解説で使用している多言語標記による解説ボードは、デジタル機器、同時通訳機能の活用なども含めて、新しい外国人向けサービスに取り組んでいる。
②海外客や聴覚・視覚障害者へのサービス向上 タブレット端末やデジタルサイネージ等を活用した、多言語(日、英、韓、繁体、簡体)での展示解説を実施する。また、デジタルサイネージ等には、可読性や視認性に優れたUDフォントを使用して情報を提供する。		・各水槽には多言語の解説パネルを設置するとともに、美ら海アプリを活用し、多言語でのエリア解説や「かざすAI図鑑」機能による展示生物種の解説を行った。また、デジタルサイネージ等にはUDフォントを使用した。			
③生態情報を映像等で分かり易く提供 当財団が長年実施してきた飼育・繁殖実績、調査研究に基づく生物の生態知見を、最新の研究映像等により解説する(モニター設置、デジタルサイネージ等)。		・展示生物に関する独自の研究や関連機関と共同研究を行い、成果については動画やパネル等を使用し、内容を分かりやすく解説した(例:サメ博士の部屋の学術論文紹介等)			

④3カ国語と沖縄名に対応した解説パネル 展示水槽には写真付きの解説モニターや解説パネルを設置し、学名、和名、英名、中名、沖縄名を併記する。	○	・展示水槽には写真付きの解説モニターや解説パネルを設置し、学名、和名、英名、中名、沖縄名を併記した。											
⑤給餌解説 水族館内の給餌については毎日同じ時間帯に実施し、摂餌生態を分かりやすく伝える。		・水族館内の給餌についてはHPやパンフレットに加え、館内への掲示により来館者へ案内し、毎日同じ時間帯に実施した。また、給餌時間に合わせ、解説員による飼育展示個体の紹介や生態解説を行った。来館者との距離が近い「熱帯魚の海」水槽での解説には、多言語表記による解説用ボードを使用した。											
⑥展示解説員によるライブ解説 専門教育(海洋生物、環境保全等)を受けた解説員及び飼育員が、環境学習や体験の要素を織り込んだ解説を行う。水槽解説やバックヤード見学には、独自の調査結果や最新の結果に基づいた知見を踏まえて解説する。		・館内の給餌時間に合わせた給餌解説や有料プログラム「沖縄美ら海水族館 裏側まるごとウォッチング」では、飼育展示個体の紹介や生態解説に加え最新の調査結果の紹介等を行った。またSNSを活用したライブ配信では、解説員が案内役となり、飼育員や研究員とともに最新情報を発信した。											
⑦最新知見の発信 財団で得られた最新の研究結果・新規展示・繁殖成功等の情報は、SNSやHP等のオンラインを活用し、効率的かつ効果的な話題の創出と普及啓発を行う。		・SNSを活用し、最新の展示情報や研究結果、繁殖個体の紹介などを画像や動画、ライブ配信などを交えて情報発信した(年間695件: Facebook162件、Instagram479件、Youtube54件)。また、HPのブログでも新しい情報を発信(年間74件)し、話題創出に努めた。											
2)海獣施設													
1)エリア毎の展示 イルカラグーン ・世界基準のガイドラインを遵守し、動物福祉に配慮した餌やりや触れ合い体験プログラムを実施し、イルカの特徴や生態について分かりやすく解説する(オキちゃん劇場でも実施)。	○	・以下のプログラムをWAZAガイドラインに基づき実施し、イルカの生態について解説した。 ・イルカ給餌体験を5回／日で実施した。 ・土日祝日限定でイルカ体験学習を1回／日で実施した。 ・7/2から日曜日限定でプレミアムイルカ飼育体験を1回／日で実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。									・良好に実施できている。